

保育科学生の教育実習における自己評価と実習園による評価

Self-estimation and estimation by a kindergarten in teaching training of junior college students at nursery department

山里哲史、山室吉孝、山田吉郎、松本和美、陸路和佳

Tetsushi YAMASATO, Yoshitaka YAMAMURO, Yoshiro YAMADA,
Kazumi MATSUMOTO, Waka MUTSURO.

1. はじめに

保育者を目指す学生にとって、保育現場で行われる実習は大きな意味を持っている。本学においては、附属幼稚園における一日実習を皮切りに、幼稚園における教育実習、保育所における保育実習、各種施設における施設実習が合わせて5回実施されている。本研究では、このうち教育実習(幼稚園実習)について取り上げる。

本学で行われている教育実習は、実習実施前の1年次前期に開講されている教育実習概論から始まる。教育実習概論では、1年次後期から始まる保育実践現場での実習が、学内での学習とは異質の体験であることを踏まえて、現場の状況と実習生としてのあり方を理解し、真摯な態度と積極的な意欲を持って実習に臨めるよう準備する。内容は実習に必要な知識と準備が中心となるが、具体的には実習生に求められる態度、心構えやマナー、行動の仕方、幼稚園の生活や日々の活動の展開、様々な幼児の姿の理解、教材研究および指導案の作成、日誌の記入の仕方等である。

この授業に並行して、4月から本学附属幼稚園において見学実習を行っている。その後、夏期休暇中に本学附属幼稚園での一日実習を行い、幼稚園生活の一日、幼児の生活、幼児の教育の方法に対する理解を深める。

そして、1年次後期に教育実習Ⅰ、2年次前期に教育実習Ⅱが行われ、各実習の終了後は事後指導として、振り返りと自己評価、御礼状の送付、面接等を実施し、保育者としての基盤ができることを目指している。

今回の研究では、2回の実習中の1週目と2週目に学生が行っている自己評価を比較し、実習中に学生の意識がどのように変化しているのかについて検討する。

学生の自己評価は、客観的な基準を設けることが困難であるため、学生それぞれの主観的な判断基準で評価されることになる。したがって実習園の評価と乖離する例が多々見られる。たとえば、学生本人は自分自身の保育活動に対し非常に自信を持っているが、実習園の評価は芳しくないということは頻繁にみられる現象である。大塚ら(2001)は、教育実習と保育実習における自己評価と実習評価を比

較し、保育実践に関する実習園の評価が厳しいと指摘している。また杉本ら(2014)は、2回の幼稚園実習のうち、1回目の実習時の過大な自己評価は、実習園の評価を開示することによって低く調整され、自己効力感も低下すること、そして2回目の実習経験によって自己評価及び自己効力感が高まることを明らかにしている。

本学の実習では、実習園の評価を開示しておらず、各期の実習終了後に行われる面接において、担当教員が評価の傾向を学生に伝えるにとどまるため、自己評価と実習園の評価の溝を埋めることは難しい。今回はそのことをふまえた上で、前出の研究を参考にし、さらに自己評価と実習園との評価の比較も行い、今後の実習指導に反映させることを目的とする。

2. 対象と方法

対象

本学短期大学部保育科平成29年度入学生

受講者 232名 有効データ 174名

本研究に関わる授業は、平成29年度入学生を対象に、平成29年度前期に開講された教育実習概論、同年後期に開講された教育実習Ⅰ、平成30年度前期に開講された教育実習Ⅱの3科目である。

また教育実習Ⅰにおける幼稚園実習は平成29年11月5日～11月17日、教育実習Ⅱにおける幼稚園実習は平成30年6月11日～6月23日に実施した。学生の配属(実習の受け入れ幼稚園)は学生の居住地や通勤時間を考慮して本学が決定する。教育実習Ⅰ及び教育実習Ⅱの実習先は原則として同じ幼稚園である。

方法

本調査はあらかじめテキストに記載されている質問紙を、教育実習Ⅰ及び教育実習Ⅱの実習中と実習後に記入させ、それぞれの実習後の最初の授業において回収した。学生には、2週間にわたる実習の1週目終了時点及び2週目終了時点に記入しておくよう指示した。また実習園の評価表は、実習終了後各幼稚園から本学宛に提出される。

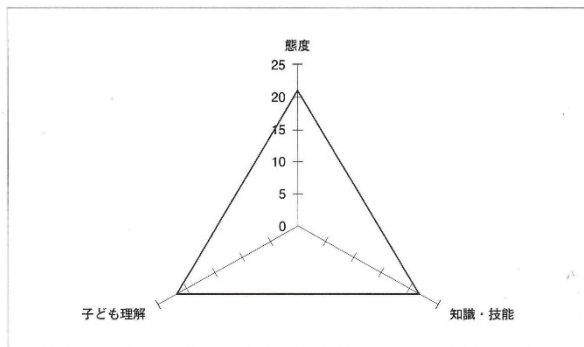
履修学生 232 名中、有効回答者数は 174 名であった。質問紙および実習園の評価表は図 1～図 3 の通りである。自己評価は、かなりできた (3 点)、適切であった (2 点)、努力が必要 (1 点) を点数化し、感覚尺度としてとらえ統計処理による分析を行った。また、各期の総合自己評価は 100 点満点で表された点数をそのまま使用した。実習園からの評価は観点別のものは、優れている (3 点)、適切である (2 点)、努力を要する (1 点) を点数化し、総合評価は非常に優れている (5 点)、優れている (4 点)、適切である (3 点)、努力を要する (2 点)、相当の努力を要する (1 点) として、同じく統計処理を行った。

本実習を終えての自己評価 () 組 No. () 名前 ()

1 週ごとに自分の実習を振り返ってみましょう。自己評価を参考に次週の実習目標を立て直しましょう。2 週間の間にどこまで自分が成長できるか確認しましょう。

項目	評価内容	かなりできた…3点 適切であった…2点 努力が必要…1点	
		1週目	2週目
態度	意欲的、積極的に実習できた 指導担当教諭とのコミュニケーション あいさつ、適切な言葉遣いなどができた 指導に対して感謝の気持ちを持てた 服装には気を配った 遅刻、欠勤、忘れ物などをしなかった 自分の健康管理		
		「態度」の計	
知識・技能	幼稚園の一日の流れを理解できた 保育の流れに沿って動いたり補助ができた 指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた 生活場面の援助 (片付け、トイレ) 安全面での配慮に気づくことができた 記録は誤字脱字なく、整理して書けた 記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた		
		「知識・技能」の計	
子ども理解	年齢による発達の違いが理解できた 自分から子どもの名前を呼んで声をかけた 自分から子どもの中に入って保育技術 (手遊びや歌、読み聞かせなど) を取り入れた 一人の子どもの集中せず全体を見られた 一人一人の性格や特徴を理解してかわることができた 部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた 子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた		
		「子ども理解」の計	

1 週ごとの得点を項目軸に入れ、線で描いてみましょう。1 週ごとに違う色で描くとどのように変化したかがわかります。三角形は大きくなりましたか?



この実習を終えて…100点満点で総合的に評価すると _____ 点
今後に向けての課題:

図 1: 自己評価表 (第 I 期、第 II 期共通)

幼稚園名		園長氏名印	
学籍番号		指導教諭名印	
氏名			
期間	出席すべき日数	病欠	事故欠
月 日 ~ 月 日	10 日	日	日
遅刻	早退	出席日数	
日	日	日	日
評価の観点			評価 (該当するものをチェック)
実習態度	A 学ぶ姿勢は積極的か	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B 実習目標を明確にしていたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	C 礼儀、言葉づかい、服装は適切か	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	D 健康管理に留意しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保育者資質	A 保育実習生としての自覚をもった行動をしているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B 協調性を保ち、自主的に行動しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	C 子どもと明るく積極的に接していたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	D 保育者になろうとする意欲が見られたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
実習日誌	A 実習目標をとらえて記入しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B 実習内容の要点を簡潔に記入しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所見	実習の様子、今後次の実習に向けて指導を要する点等についてご教示ください。	総合評価 (該当するものに○をつけて下さい。)	
		実習生として A: 非常に優れている B: 優れている C: 適切である D: 努力を要する E: 相当の努力を要する	

図 2: 実習園の教育実習評価表 (第 I 期)

幼稚園名		園長氏名印	
学籍番号		指導教諭名印	
氏名			
期間	出席すべき日数	病欠	事故欠
月 日 ~ 月 日	10 日	日	日
遅刻	早退	出席日数	
日	日	日	日
評価の観点			評価 (該当するものをチェック)
実習態度	A 学ぶ姿勢は積極的か	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B 実習目標を明確にしていたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	C 礼儀、言葉づかい、服装は適切か	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	D 健康管理に留意しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保育者資質	A 保育実習生としての自覚をもった行動をしているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B 協調性を保ち、自主的に行動しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	C 子どもと明るく積極的に接していたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	D 保育者になろうとする意欲が見られたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
実習日誌	A 実習目標をとらえて記入しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B 実習内容の要点を簡潔に記入しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
所見	実習の様子、今後次の実習に向けて指導を要する点等についてご教示ください。	総合評価 (該当するものに○をつけて下さい。)	
		実習生として A: 非常に優れている B: 優れている C: 適切である D: 努力を要する E: 相当の努力を要する	

図 3: 実習園の教育実習評価表 (第 II 期)

3. 結果と考察

表1に第1期第1週及び第2週の自己評価の平均値、表2に第2期第1週及び第2週の自己評価の平均値、また第1週と第2週の平均値の差の検定を行い、項目ごとにまとめた。また表3にはそれらの平均値の高い順に項目を並べた順位表を記した。

まず有意差については、第1期の「遅刻、欠勤、忘れ物をしなかった」「指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた」「部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた」第2期の「遅刻、欠勤、忘れ物をしなかった」の項目では有意差は認められなかった。また、第1期、第2期とも「自分の健康管理」の

	評価内容	第1期 第1週	第1期 第2週	有意差
態度	意欲的、積極的に実習できた	2.20 (0.63)	2.66 (0.51)	**
	指導担当教諭とのコミュニケーション	2.13 (0.59)	2.47 (0.53)	**
	挨拶、適切な言葉遣いなどができた	2.48 (0.57)	2.63 (0.51)	**
	指導に対して感謝の気持ちを持てた	2.84 (0.36)	2.93 (0.26)	**
	服装には気を配った	2.81 (0.39)	2.86 (0.35)	**
	遅刻、欠勤、忘れ物などをしなかった	2.84 (0.41)	2.87 (0.37)	n. s.
	自分の健康管理	2.34 (0.77)	2.13 (0.79)	**
知識・技能	幼稚園の一日の流れを理解できた	2.48 (0.57)	2.91 (0.28)	**
	保育の流れに沿って動いたり援助ができた	2.09 (0.61)	2.55 (0.52)	**
	指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた	1.80 (0.71)	2.00 (0.69)	n. s.
	生活場面の援助 (片付け、トイレ)	2.40 (0.59)	2.67 (0.48)	**
	安全面での配慮に気づくことができた	2.16 (0.59)	2.40 (0.51)	**
	記録は誤字、脱字なく整理して書けた	1.67 (0.59)	1.88 (0.61)	**
	記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた	2.07 (0.60)	2.21 (0.63)	**
子ども理解	年齢による発達の違いが理解できた	2.20 (0.66)	2.65 (0.61)	**
	自分から子どもの名前を呼んで声をかけた	2.59 (0.59)	2.91 (0.28)	**
	自分から子どもの中に入って保育技術(手遊びや歌、読み聞かせなど)を取り入れた	2.16 (0.67)	2.48 (0.66)	**
	1人ひとりの子どもに集中せず全体を見られた	2.07 (0.68)	2.45 (0.58)	**
	1人1人の性格や特徴を理解してわかることができた	2.12 (0.61)	2.53 (0.53)	**
	部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた	1.78 (0.62)	2.08 (0.69)	n. s.
	子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた	1.94 (0.55)	2.13 (0.54)	**

()は標準偏差 ** : p<0.01

表1：第1期第1週と第2週の自己評価の平均

	評価内容	第2期 第1週	第2期 第2週	有意差
態度	意欲的、積極的に実習できた	2.33 (0.56)	2.75 (0.44)	**
	指導担当教諭とのコミュニケーション	2.30 (0.56)	2.60 (0.54)	**
	挨拶、適切な言葉遣いなどができた	2.63 (0.52)	2.74 (0.46)	**
	指導に対して感謝の気持ちを持てた	2.85 (0.36)	2.94 (0.27)	**
	服装には気を配った	2.81 (0.39)	2.86 (0.35)	**
	遅刻、欠勤、忘れ物などをしなかった	2.87 (0.35)	2.84 (0.41)	n. s.
	自分の健康管理	2.66 (0.58)	2.48 (0.71)	**
知識・技能	幼稚園の一日の流れを理解できた	2.64 (0.52)	2.92 (0.27)	**
	保育の流れに沿って動いたり援助ができた	2.13 (0.49)	2.63 (0.50)	**
	指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた	2.02 (0.61)	2.22 (0.59)	**
	生活場面の援助 (片付け、トイレ)	2.40 (0.53)	2.66 (0.47)	**
	安全面での配慮に気づくことができた	2.17 (0.59)	2.49 (0.56)	**
	記録は誤字、脱字なく整理して書けた	1.91 (0.58)	2.10 (0.56)	**
	記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた	2.10 (0.54)	2.30 (0.55)	**
子ども理解	年齢による発達の違いが理解できた	2.26 (0.57)	2.64 (0.53)	**
	自分から子どもの名前を呼んで声をかけた	2.68 (0.53)	2.96 (0.22)	**
	自分から子どもの中に入って保育技術(手遊びや歌、読み聞かせなど)を取り入れた	2.35 (0.68)	2.62 (0.57)	**
	1人ひとりの子どもに集中せず全体を見られた	2.10 (0.57)	2.47 (0.53)	**
	1人1人の性格や特徴を理解してわかることができた	2.14 (0.50)	2.68 (0.47)	**
	部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた	1.96 (0.58)	2.22 (0.62)	**
	子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた	2.06 (0.49)	2.31 (0.55)	**

()は標準偏差 ** : p<0.01

表2：第2期第1週と第2週の自己評価の平均

項目において第Ⅱ期に有意に低下した。その他の項目においては有意に増加した。

「自分の健康管理」については、夜型や不規則な生活習慣が身につけている学生が多く、その習慣を実習時に突然変えようとしてもなかなかうまくいかないことの現れであると考えられる。とくに第1週は何か持ちこたえられるものの、第2週には疲労が蓄積し、このような自己評価になっていると思われる。しかし表3の順位表において、

「遅刻、欠勤、忘れ物などをしなかった」の項目は高い平均値を示しており、健康管理がうまくいかず体調を崩していても最後まで実習を行ったことがうかがえる。

表3の順位表で高い評価をしている項目は、「態度」に関する項目が多くなっている。これらの項目は、保育活動にかかわるテクニカルな部分とは関連性が薄く、社会人としての基礎的な素養が問われる項目であるといえよう。すなわち保育者を目指すか否かにかかわらず必要な項目である。

順位	第1期第1週	第1期第2週	第2期第1週	第2期第2週
1	指導に対して感謝の気持ちを持てた	指導に対して感謝の気持ちを持てた	遅刻、欠勤、忘れ物などをしなかった	自分から子どもの名前を呼んで声をかけた
2	遅刻、欠勤、忘れ物などをしなかった	自分から子どもの名前を呼んで声をかけた	指導に対して感謝の気持ちを持てた	指導に対して感謝の気持ちを持てた
3	服装には気を配った	幼稚園の一日の流れを理解できた(2位)	服装には気を配った	幼稚園の一日の流れを理解できた
4	自分から子どもの名前を呼んで声をかけた	遅刻、欠勤、忘れ物などをしなかった	自分から子どもの名前を呼んで声をかけた	服装には気を配った
5	挨拶、適切な言葉遣いなどができた	服装には気を配った	自分の健康管理	遅刻、欠勤、忘れ物などをしなかった
6	幼稚園の一日の流れを理解できた(5位)	生活場面の援助(片付け、トイレ)	幼稚園の一日の流れを理解できた	意欲的、積極的に実習できた
7	生活場面の援助(片付け、トイレ)	意欲的、積極的に実習できた	挨拶、適切な言葉遣いなどができた	挨拶、適切な言葉遣いなどができた
8	自分の健康管理	年齢による発達の違いが理解できた	生活場面の援助(片付け、トイレ)	1人1人の性格や特徴を理解してわかることができた
9	意欲的、積極的に実習できた	挨拶、適切な言葉遣いなどができた	自分から子どもの中に入って保育技術(手遊びや歌、読み聞かせなど)を取り入れた	生活場面の援助(片付け、トイレ)
10	年齢による発達の違いが理解できた	保育の流れに沿って動いたり援助ができたりした	意欲的、積極的に実習できた	年齢による発達の違いが理解できた
11	安全面での配慮に気づくことができた	1人1人の性格や特徴を理解してわかることができた	指導担当教諭とのコミュニケーション	保育の流れに沿って動いたり援助ができたりした
12	自分から子どもの中に入って保育技術(手遊びや歌、読み聞かせなど)を取り入れた(11位)	自分から子どもの中に入って保育技術(手遊びや歌、読み聞かせなど)を取り入れた	年齢による発達の違いが理解できた	自分から子どもの中に入って保育技術(手遊びや歌、読み聞かせなど)を取り入れた
13	指導担当教諭とのコミュニケーション	指導担当教諭とのコミュニケーション	安全面での配慮に気づくことができた	指導担当教諭とのコミュニケーション
14	1人1人の性格や特徴を理解してわかることができた	1人ひとりの子どもに集中せず全体を見られた	1人1人の性格や特徴を理解してわかることができた	安全面での配慮に気づくことができた
15	保育の流れに沿って動いたり援助ができたりした	安全面での配慮に気づくことができた	保育の流れに沿って動いたり援助ができたりした	自分の健康管理
16	記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた	記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた	1人ひとりの子どもに集中せず全体を見られた	1人ひとりの子どもに集中せず全体を見られた
17	1人ひとりの子どもに集中せず全体を見られた(16位)	自分の健康管理	記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた	子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた
18	子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた	子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた(17位)	子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた	記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた
19	指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた	部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた	指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた	指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた
20	部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた	指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた	部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた	部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた
21	記録は誤字、脱字なく整理して書けた	記録は誤字、脱字なく整理して書けた	記録は誤字、脱字なく整理して書けた	記録は誤字、脱字なく整理して書けた

表3：自己評価の平均値の項目ごとの順位

一方、平均値の相対的順位で下位を占めているのは部分実習や指導案、記録に関わる項目が多くなっている。中でもワースト3は「記録は誤字、脱字なく整理して書けた」「部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた」「指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた」の3項目が占めている。

このうち「記録は誤字、脱字なく整理して書けた」の項目は、各期とも第1週から第2週にかけて有意に上昇しているものの、すべての週において最下位となっている。近年、大学生の基礎学力の低下が問題視されているが、保育者を目指す学生も例外ではなく、学内での授業において学生の書きりレポートを添削する際にもその傾向がうかがえる。記録の記入だけでなく、御礼状の指導も行っているが、手紙とハガキの区別がついていないことをはじめ、両方とも全く書いたことのない学生も見られる。また、切手の値段はおろか、ポストのどちら側に投函したらよいかさえ知らない学生もいるのが現状である。「パソコンが普及しているので、実習における日誌を簡素化し、その分子どもたちとの実践的な触れ合いを重視した方が良いのではないか」との考え方もあるが、学生の自己評価がこのような状況であることを考えると、やはり手書きでの記録記入は続けていくべきであると思われる。

「部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた」の項目も概して低い自己評価となっている。この項目に限らず、実際に子どもと接しなければ得ることの出来ない実践的な力は、やはり学生の苦手意識が強い傾向にある。「子どもの様子や反応に合わせて」「子どもの活動の予測に基づいて」「子どもの興味や実態を理解したうえで」等、学生自身から一方通行的に発信するだけではなく、子どもに配慮することが求められる項目は学生の苦手とするところであることがわかる。また記録の記入、指導案の作成にかかわる項目も低い自己評価になっている。これらの傾向をふまえたうえで、実習に関する指導を行っていく必要があるといえよう。

次に実習園の行った学生に対する評価について見ていく。表4に第I期の実習園における評価、表5に第II期の実習園における評価を記した。

実習園における評価は第I期と第II期で評価項目が異なっていること、また学生の自己評価の項目とも内容が異なっていることから、厳密な比較はできないが、内容の傾向が似通っている評価項目について、学生の自己評価と実習園

	評価内容	実習園の評価
実習態度	学ぶ姿勢は積極的か	2.34(0.54)
	目標を明確にしていたか	2.39(0.50)
	礼儀、言葉遣い、服装は適切か	2.42(0.61)
	健康管理に留意しているか	2.63(0.54)
保育者資質	実習生としての自覚をもった行動をしているか	2.32(0.56)
	協調性を保ち、自主的に行動しているか	2.21(0.59)
	子どもと明るく積極的に接していたか	2.41(0.59)
	保育者になろうとする意欲が見られたか	2.40(0.54)
実習日誌	実習目標をとらえて記入しているか	2.29(0.59)
	実習内容の要点を簡潔に記入しているか	2.17(0.61)
総合	総合評価	3.66(0.77)

()は標準偏差

表4：第I期の実習園における評価

	評価内容	実習園の評価
実習態度	作業は正確になされているか	2.41(0.53)
	協力的態度で接しているか	2.52(0.58)
	礼儀、服装は正しいか	2.69(0.49)
教材研究	健康管理に留意しているか	2.69(0.53)
	幼児に適した教材を用意しているか	2.33(0.56)
	教材の目標・内容を理解しているか	2.21(0.49)
	教材の研究は十分か	2.07(0.58)
指導計画	教材の準備は十分なされているか	2.34(0.64)
	指導案は綿密に立案されているか	2.17(0.56)
	指導の目標は適切か	2.24(0.55)
	指導にあつての時間配分は適切か	2.06(0.58)
	導入、展開等の保育の流れは適切か	2.12(0.55)
指導技術	柔軟性のある指導案であるか	2.08(0.54)
	ことば、声量は適切か	2.06(0.59)
	1人ひとりの幼児をとらえているか	2.23(0.57)
	幼児の興味をつかみ臨機に処置しているか	2.24(0.60)
保育者資質	特技をもち、かつ活かしているか	2.16(0.56)
	責任ある行動をしているか	2.32(0.57)
	協調性を保ち、自主的に行動しているか	2.39(0.61)
	明朗で快活であるか	2.40(0.59)
実習日誌	情緒が安定し落ち着いた行動がとれているか	2.61(0.54)
	実習内容が正確に記入されているか	2.35(0.58)
	研究的立場で記入されているか	2.17(0.58)
	見学、観察は細くくなされているか	2.26(0.59)
総合	実習内容の要点を簡潔に記入しているか	2.25(0.53)
	総合評価	3.72(0.84)

()は標準偏差

表5：第II期の実習園における評価

の評価にどのような差が見られるか検討した。

検討する評価項目は、学生の自己評価のうち各期とも第2週の数値を用いる。また比較する項目は、第I期は自己評価「意欲的、積極的に実習できた」と実習園評価「学ぶ姿勢は積極的か」、自己評価「挨拶、適切な言葉遣いなどができた」と実習園評価「礼儀、言葉遣い、服装は適切か」、自己評価「服装には気を配った」と実習園評価「礼儀、言葉遣い、服装は適切か」、自己評価「自分の健康管理」と実習園評価「健康管理に留意しているか」、自己評価「自分から子どもの中に入って保育技術(手遊びや歌、読み聞かせなど)を取り入れた」と「子どもと明るく積極的に接していたか」、自己評価「記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた」と「実習内容の要点を簡潔に記入しているか」の6項目、第II期は自己評価「服装には気を配った」と実習園評価「礼儀、服装は正しいか」、自己評価「自分の健康管理」と実習園評価「健康管理に留意しているか」、自己評価「一人一人の性格や特徴を理解してわかることができた」と実習園評価「一人一人の幼児をとらえているか」、自己評価「部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた」と実習園評価「幼児の興味をつかみ臨機に処置しているか」、自己評価「子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた」と実習園評価「教材の研究は十分か」、自己評価「指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた」と実習園評価「指導案は綿密に立案されているか」の6項目とした。それぞれの比較した項目を表6、表7に記す。そしてこれらの項目の自己評価と実習園の評価がどの程度一致しているのか、その比率を表8及び表9に示す。

		評価内容	
実習 態度	自己評価	意欲的、積極的に実習できた	2.66(0.51)
	実習園の評価	学ぶ姿勢は積極的か	2.34(0.54)
	自己評価	挨拶、適切な言葉遣いなどができた	2.63(0.51)
	実習園の評価	礼儀、言葉遣い、服装は適切か	2.42(0.61)
	自己評価	服装には気を配った	2.86(0.35)
	実習園の評価	礼儀、言葉遣い、服装は適切か	2.42(0.61)
	自己評価	自分の健康管理	2.13(0.79)
	実習園の評価	健康管理に留意しているか	2.63(0.54)
保育者 資質	自己評価	自分から子どもの中に入って保育技術(手遊びや歌、読み聞かせなど)を取り入れた	2.48(0.66)
	実習園の評価	子どもと明るく積極的に接していたか	2.41(0.59)
実習 日誌	自己評価	記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた	2.21(0.63)
	実習園の評価	実習内容の要点を簡潔に記入しているか	2.17(0.61)

()は標準偏差

表6：第Ⅰ期における自己評価と実習園の評価の比較

		評価内容	
実習 態度	自己評価	服装には気を配った	2.86(0.35)
	実習園の評価	礼儀、服装は正しいか	2.69(0.49)
	自己評価	自分の健康管理	2.13(0.79)
	実習園の評価	健康管理に留意しているか	2.69(0.53)
指導 技術	自己評価	1人1人の性格や特徴を理解してわかることができた	2.47(0.53)
	実習園の評価	1人ひとりの幼児をとらえているか	2.23(0.57)
	自己評価	部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた	2.22(0.62)
	実習園の評価	幼児の興味をつかみ臨機に処置しているか	2.24(0.60)
教材 研究	自己評価	子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた	2.31(0.55)
	実習園の評価	教材の研究は十分か	2.07(0.58)
指導 計画	自己評価	指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた	2.22(0.59)
	実習園の評価	指導案は綿密に立案されているか	2.17(0.56)

()は標準偏差

表7：第Ⅱ期における自己評価と実習園の評価の比較

		評価内容	自己評価<実習園	自己評価=実習園	自己評価>実習園
実習 態度	自己 評価	意欲的、積極的に実習できた	8.0	52.3	39.7
	実習園 の評価	学ぶ姿勢は積極的か			
	自己 評価	挨拶、適切な言葉遣いなどができた	13.8	52.9	32.8
	実習園 の評価	礼儀、言葉遣い、服装は適切か			
	自己 評価	服装には気を配った	4.0	53.4	42.0
	実習園 の評価	礼儀、言葉遣い、服装は適切か			
	自己 評価	自分の健康管理	50.0	37.9	12.1
	実習園 の評価	健康管理に留意しているか			
保育者 資質	自己 評価	自分から子どもの中に入って保育技術(手遊びや歌、読み聞かせなど)を取り入れた	20.7	47.7	31.6
	実習園 の評価	子どもと明るく積極的に接していたか			
実習 日誌	自己 評価	記録の考察は、自分なりに気づいたこと考えたことを的確にまとめられた	24.1	48.3	27.6
	実習園 の評価	実習内容の要点を簡潔に記入しているか			

(単位：%)

表8：第Ⅰ期における自己評価と実習園の評価の一致率

		評価内容	自己評価<実習園	自己評価=実習園	自己評価>実習園
実習態度	自己評価	服装には気を配った	13.8	60.9	24.7
	実習園の評価	礼儀、服装は正しいか			
	自己評価	自分の健康管理	19.5	59.8	19.5
	実習園の評価	健康管理に留意しているか			
指導技術	自己評価	1人1人の性格や特徴を理解してわかることができた	10.9	36.8	52.3
	実習園の評価	1人ひとりの幼児をとらえているか			
	自己評価	部分実習や責任実習では子どもの様子や反応に合わせて臨機応変に対応できた	31.0	40.2	28.2
	実習園の評価	幼児の興味をつかみ臨機に処置しているか			
教材研究	自己評価	子どもの興味や実態を理解したうえで教材研究ができた	16.7	45.4	37.9
	実習園の評価	教材の研究は十分か			
指導計画	自己評価	指導案は子どもの活動の予測に基づいて作成できた	23.6	47.1	28.2
	実習園の評価	指導案は綿密に立案されているか			

(単位：%)

表9：第Ⅱ期における自己評価と実習園の評価の一致率

表8及び表9について、対応している項目ごとに相関分析を実施したところ、第Ⅰ期の自己評価「意欲的、積極的に実習できた」と実習園評価「学ぶ姿勢は積極的か」の間 ($r=.257$)、自己評価「自分の健康管理」と実習園評価「健康管理に留意しているか」の間 ($r=.210$)、第Ⅱ期の自己評価自己評価「自分の健康管理」と実習園評価「健康管理に留意しているか」の間 ($r=.204$) に弱い相関関係が認められたが、他の項目では相関関係は認められなかった。

一致率では第Ⅰ期の自己評価「自分の健康管理」と実習園評価「健康管理に留意しているか」の項目で実習先の評価より自己評価の方が低い割合が50%に達している。また第2期では、自己評価「一人一人の性格や特徴を理解してわかることができた」と実習園評価「一人一人の幼児をとらえているか」の項目において、実習園の評価が自己評価より低い割合が50%を超えており、非常に厳しい評価であることがわかる。このことは、学生は子ども一人一人について理解していると感じているが、指導教員の視点ではそのようには見えていないということである。指導技術や子どもとの関わりが必要な保育に関する力は一朝一夕で身につけられるものではない。学生には謙虚な気持ちで実習に臨むよう指導していく必要があるといえよう。

最後に第Ⅰ期及び第Ⅱ期の学生による自己総合評価と実習園による総合評価について記す。学生の自己総合評価の点数分布は図4、図5に示す通りであり、平均値は第Ⅰ期63.60点(標準偏差12.04)、第Ⅱ期73.45点(標準偏差11.37)で有意に増加している($p<0.01$)。また実習園による総合評価の分布は図6、図7に示す。平均値は表4、表5

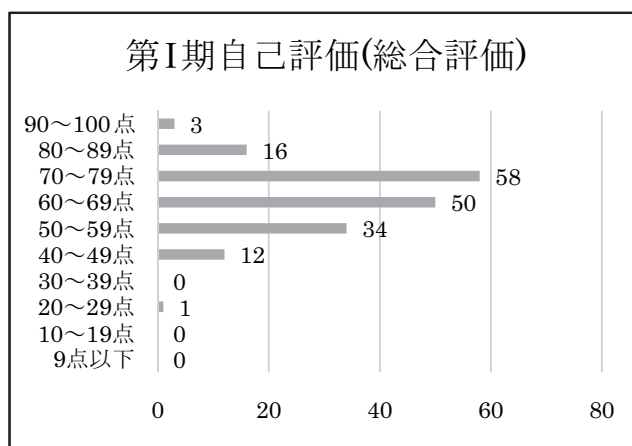


図4：第Ⅰ期における学生の自己評価(総合評価)分布(人)

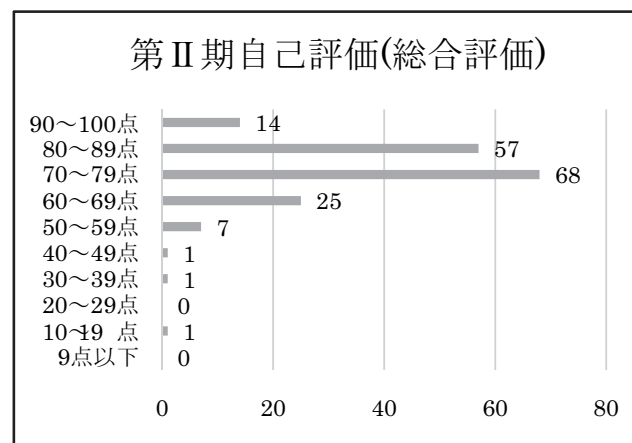


図5：第Ⅱ期における学生の自己評価(総合評価)分布(人)

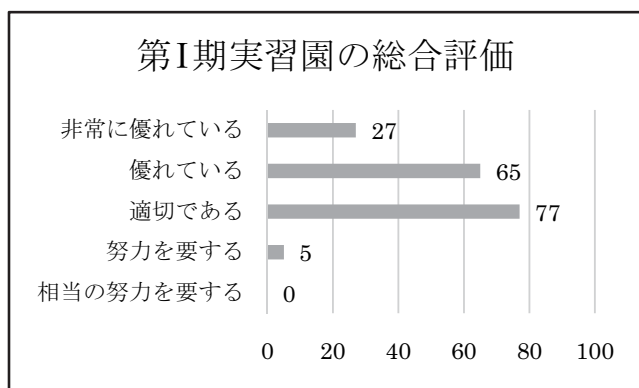


図6：第I期における実習園の総合評価分布（人）

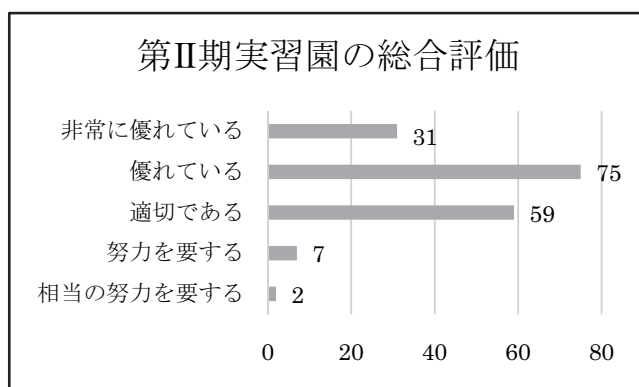


図7：第II期における実習園の総合評価分布（人）

に記した。実習園の評価は第I期と第II期で有意差は見られなかった。また各期とも学生の自己総合評価と実習園による総合評価の間に相関は見られなかった。

4. まとめと課題

教育実習における学生の自己評価は、実習中、第1週より第2週にかけて概ね上昇するが、健康管理に関しては低下する傾向にある。学生にとって2週間の実習は、強い緊張を強いられていることが示唆される。また自己評価は、保育者であるか否かにかかわらず、社会人としての素養に関する項目は比較的高い値を示した。一方、子どもに配慮することが求められる項目については、評価が低い傾向にあった。また記録の記入や指導案の作成など、文章力に関する項目も低い傾向にある。中でも誤字、脱字なく記録を書くという能力に関しては、これまで以上に改善が必要であると思われる。

実習園の評価は、学生の自己評価よりやや厳しい傾向にある。ここでも子どもとの関わりや、記録、指導案の記入という課題が浮かび上がる。

実習後の学生による自己評価は、自己の保育力の不十分さを自覚し、また、その部分のレベル・アップが必要であるのかを自覚してもらうために必要である。

また、今回のデータ解析による自己評価と実習園による評価の乖離が大きい箇所があることが明らかになった。この箇所は、学生が思う以上に現場では学生の保育力のさらなるレベル・アップが必要であると考えているということの現れであると思われる。このことを実習指導を行う時に

踏えて行うと共に、学生に適宜伝え指導していく必要があると思われる。

今回の分析では、学生の自己評価表と実習園の評価表がやや統一性に欠けていること、実習園の評価項目が第I期と第II期で異なること、評価が3段階で行われていることなど、いくつかの課題が見られた。今後はこれらを改善し、より有効な分析を行い、学生指導に活かしていく必要がある。

【参考文献】

- 大塚健樹、吉田恵子、斎藤修 2001 教育実習保育実習における実習評価と自己評価の比較 盛岡大学短期大学部紀要 11 19-23
- 杉本信、並木真理子 2014 幼稚園実習における実習園評価の開示と実習自己評価及び幼稚園実習自己効力感の変容との関連 チャイルドサイエンス 10 61-65
- 朴淳香、山室吉孝、松本和美、佐藤英文、久米真浩 2008 保育科学生の教育実習体験と自己評価の変化についての予備的研究 鶴見大学紀要 第45号 第3部 81-87
- 三木知子、桜井茂男 1998 保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響 教育心理学研究 46 (2) 83-91